

No	質問者	質問分野	質問・意見	回答
1	一関-1-1	ILCの動向	実現の可能性、政府を含めた推進の可能性、外部スケジュールを伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ILCは、世界各国からお金を出し合う、グローバルプロジェクトとして進めています。 ・加速器分野ではグローバルプロジェクトとして進めた事例は過去にはありませんが、核融合実験炉ITERは、グローバルプロジェクトの例となります。 ・ILCもグローバルプロジェクトとして、できれば日本に誘致して、「お金を出してやりたい」と各国から言ってもらうのが、重要なプロセスではないかと思えます。 ・そのために、IDTでは、国際有識者会議を作り、グローバルなプロジェクトについて共通認識を作る取り組みを行っています。 ・ただ、現時点では「ILCに賛成する」段階から、「お金を出してやりましょう」という段階までは進んでいない状況です。 ・ヨーロッパの国々はCERNに予算を拠出していることもあり、将来計画に対するCERNの動向を注視しています。 ・また、アメリカではニュートリノの計画(DUNE)が非常に遅れており、ILCやFCC-eeなどの将来計画に対する予算的な余裕はここ数年はないと聞いています。 ・(上記のとおり)グローバルなプロジェクトとして、ヒッグスファクトリーが必要ということをご皆さんが少しずつ認識を高めていくのが重要と思えます。 ・建設が来年度にすぐ決まるということは無いと思われませんが、KEKも、IDTも実現に向けて努力し続けているところです。
2	一関-1-2	ILCの動向	<p>中国では2027年には、加速器を国内で建設するという話があり、どんどん先行している印象があります。</p> <p>日本のILC計画において支障になっているのは、最後は8,000億とか9,000億円とも言われる建設費ということになるのでしょうか。</p> <p>先般、学術会議でも反対されていたようですが、政治力を使うとか、何かしらの方法で建設を早める方策はないのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中国のCEPC建設に関しては、あくまでも中国国内で認められればという前提になります。 ・中国の国内で認められれば、一国のプロジェクトなので建設は速く進むことが予想され、その場合、一番大きな影響を受けるのは同じ円形加速器を提案しているFCC-eeとなります。 ・なお、ILCの建設費用については、一国で80%以上の建設費を負担する国際モデル(LHCなどと同じ形)では実現は難しいと思えます。建設費用については国際協調が重要です。 ・CERNのヨーロッパ戦略では、CERNが想定しているFCCが最優先の検討事項になりますが、研究者の中には、FCCが非常にお金がかかり過ぎるということを危惧する方はいます。 ・研究者の策定する欧州戦略が出た後で、財政見直しを含む計画推進可否の議論が理事会でなされます。 ・ヒッグスファクトリーが重要というのは、皆さんがよく認識されているので、リニアコライダーについても、徐々に議論が活発になっていくのではと期待しています。
3	一関-1-3	住民理解	一関市でも大東を中心に非常に過疎化が進んでいる状況で、呑気に構えていたのでは、人がいなくなってしまう。東磐井地区は、本当に過疎化がひどい状況ですが、それを踏まえてILC計画は、考えているのでしょうか	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化については、研究者の方は、あまり気にしていないと思われれます。 ・研究者からは、北上高地の岩盤が建設に適しているという前提で、北上高地が選ばれておりますが、建設が実現した場合は、周辺の自治体、各研究者等が居住することということで、ある程度の人口の増加が期待されます。 ・県では、今後の人口減少も考えながら、ILCのような施設を実現して、人口減少を少しでも食い止めようということと、地方創生、地域創生にもなりうるという前提のもと、県民計画にILCプロジェクトを掲げて施策を進めています。

No	質問者	質問分野	質問・意見	回答
4	一関-2-1	ILCの動向	経費についての予算の取組状況について、計画に対し進行の課題は具体的に知りたい	ILCは国際協力で実施することが必須です。建設予算・運営を国際分担で進めるグローバルプロジェクトとして世界各国から賛同を得られるような努力を続けています。
5	一関-2-2	ILCの動向	・実現に向けてスピード感を持って進めて欲しい。ボヤボヤしてたら中国が先行し世界の研究者がそちらに行ってしまう心配がある。 ・日本学術会議が反対している理由がわからない。	ILCは国際協力で実施することが必須です。建設予算・運営を国際分担で進めるグローバルプロジェクトとして世界各国から賛同を得られるような努力を続けています。
6	一関-2-3	・放射線管理 ・ILCの動向	・トリチウムに関する不安はかなり払拭されたと思います。 ・結局、ILC実現に近づいているのか、どうか・・・分からないってことでしょうか？日本政府がひとまず前向きな発言すれば(大きく)動いていく・・・ということでもないのでしょうかね？	ILCは国際協力で実施することが必須です。建設予算・運営を国際分担で進めるグローバルプロジェクトとして世界各国から賛同を得られるような努力を続けています。
7	一関-2-4	ILCの動向	最先端のILCが一関に建設されれば、この地方の発展に役立つというのは、良く分かりました。10年～20年は、建設や研究の準備で安定した発展が可能だと思いますが、いずれこの施設は、時間が経てば古くなると思いますが、別な国や国内の他の所に新たな建設をすることはないのであるか。	将来的には別の場所に当然なんらかの施設は作られるだろうと思いますし、その時、ILC施設がどう利用されるかについては今の段階ではわかりません。尚、欧州合同原子核研究機関(CERN)では、LEPという電子陽電子衝突型加速器のトンネルに、大型ハドロン衝突型加速器(LHC)が建設されました。米国SLAC国立加速器研究所では、スタンフォード直線型加速器(SLC)の跡地にPEP-IIと呼ばれる加速器が建設され、実験が行われました。さらに、PEP-II実験終了後は、LCLS-IIという放射光加速器が稼働しています。国内においても、KEKで1980年代にトリスタンという電子陽電子衝突型加速器を使った実験が行われました。その施設は、KEKB加速器、その後、SuperKEKB加速器として再利用されています。
8	一関-2-5	・ILCの意義 ・放射線管理	・ILCの意義について より具体的な課題解決策を記載した方がベター、エネルギーの新規事業が可能となるなど。※意見 ・安全性について 放射能物質が出現するので、第三者機関の設置が必要と考えるが・・・ (原子力事業に対する規制委員会のようなもの)	加速器研究施設では施設の形式に応じて、放射性物質の量のシミュレーションが行われ、管理目標値の設定等の管理方針を定めています。ILCでも他の加速器同じように管理していくことになります。